

洛和会京都厚生学校 学校評価 令和5年度自己評価結果

本校が取り組んだ令和5年度の学校運営を振り返り、点検・評価した自己評価結果を以下に取りまとめる。

令和5年度においては、2年後に迫った学校創立40周年及び校舎新築移転に向けて「選ばれる学校づくり・教育環境の充実」を重点的に展開することとした。

なお、学校評価に際し年度末に生徒アンケート、教員アンケートを実施し、経年変化を調べるとともに、双方の意識の乖離を測ることとしているが、前年に比し回収率が大きく増加している。看護学科では前年47.8%の回収率が76.5%に、助産学科では前年60%が95%に上昇した。教員については前年同様に100%の回収率となっている。

1 基礎データ（令和5年度）

（1）生徒数

看護学科1年 (定員80名)	看護学科2年 (定員80名)	看護学科3年 (定員80名)	助産学科1年 (定員20名)	合計 (定員260名)
82名	91名	84名	20名	277名

（2）国家試験合格者数

区分	受験者数	合格者数	合格率
看護学科	80名	72名	90.0%
助産学科	20名	20名	100%

（3）就職率

看護学科	100%
助産学科	100%

2 評価項目

（1）教育理念・教育目的について

本校の教育理念は、「洛和会ヘルスケアシステムの理念（*1）を基盤とし、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持った助産師・看護師の育成を目指す。」及び「豊かな人間性と看護に必要な態度、知識、技術を持った地域医療に貢献できる医療人の育成を目指す。」の2点である。

また、教育目的には「人間を総合的に理解し、人間愛と人権意識に根差した、対象から信頼される専門的パートナーシップを備えた医療人を育成する。」「専門職として必要な知識及び技術を身につけ多様な対象の個別性に対応できるよう、知識を自ら探求し、解決していく医療人を育成する。」と定めている。

（*1 洛和会ヘルスケアシステムの理念とは「一 顧客第一に質の高い医療、介護、保育を提供します」「一 すべてのサービスに誇りと責任を持ちます」「一 経営基盤を確立し、個人と組織の向上を目指します」の3点である。）

教育理念、教育目標について学生の理解度と教員の周知・浸透に係る自己到達度を問う

たところ、教員は「理念」「目的」とともに向上し、意識づけされたことが窺える。一方生徒の側は、看護学科では「理念」「目的」とともに減少、助産学科では「理念」「目的」ともに上昇し、とりわけ「目的」は11ポイントと大きく向上した。

本校の教育理念、教育目的、さらにはアドミッションポリシーなど3つのポリシーを、募集段階から生徒にしっかり理解・認識していただく仕掛けづくりが必用である。

(2) 学校運営について

令和5年度においては、学校長1名、学科長2名、副学科長2名及び専任教員15名と実習指導教員1名。さらに教務事務担当職員4名、管理部担当職員7名の体制で学校運営を進めた。

また、きめ細かな学校運営を展開するために「看護学科会議」「カリキュラム会議」「国家試験対策会議」「専門領域別担当者会議」「隣地実習指導者会議」「学内判定会議」、さらには、「運営会議」「退学防止プロジェクト」「図書委員会」「TQM委員会」「DX推進委員会」「インスタグラム・学校だより委員会」「オープンキャンパス委員会」「広報戦略委員会」など各種の会議を設置し連絡調整、企画運営を進めている。

これに加え、令和5年4月に理事長、副理事長を交えた「学校未来会議」を設置し、入試方法、学生獲得戦略、新校舎等の重要事項について課題を洗い出し、学校創立40周年及び校舎新築移転に向けての準備段階に入ったところである。

(3) 教育課程・教育活動について

令和5年度の教育課程及び教育活動がどの程度有用であったかについて生徒及び教員にアンケートをとった。

まず、シラバスについて、授業内容を理解しやすく有用であったと受け止める生徒は前年と比し看護学科で12ポイント程度低くなり68.3%、逆に助産学科では17.5ポイント上昇し84.2%、教員は68.4%が72.2%と増加した。

次にカリキュラムについて段階的に学べるよう工夫されていたかの問いにも看護学科と助産学科で同様の傾向が見られており、この変化には回収率の増加がある程度影響したものと想定される。より生徒の学習理解が深まる工夫・改善が不可欠である。

また、学習の躓きにどう対処しているかを複数回答で問うたところ、「級友に聞く」が最も多く（看護学科で79.2%、助産学科で100%）、ピアサポート的な良さが見られる一方、「教員・指導者に聞く」を選択している層が両学科とも5割程度であり、正しい理解を深めてもらうためにも、この比率を確実に高める工夫が必要である。

(4) 学習の到達度について

令和5年度における本校の看護師国家試験合格率は前年度97.3%が90.0%と低下した。全国の合格率も90.8%から87.8%と低下しており、例年よりも試験問題の難易度が上がったものと推察される。また、助産師国家試験合格率は前年度においては95.7%であったが、今年度は100%に達し一昨年の比率に戻した。なお、5年度の助産師国家試験の全

国合格率は 98.8%である。

また、新卒学生の全国平均合格率は、看護学科で 93.2%、助産学科で 99.3%であった。

引き続き、定期的な模擬試験の実施、国家試験対策の強化、ICT による特別講義の実施などを進めるとともに、基礎力を高める取組や入学前学習の推奨、さらには教員一人一人が生徒の学習の躓きに適宜・適切に対応することが肝要である。

就職率については看護学科、助産学科ともに 100%であった（国家試験に合格しなかった生徒も看護助手等で就職している）。

生徒の退学率は、看護学科の 1 年生が 2.4%、2 年生が 6.6%、3 年生が 3.6%、助産学科の生徒の退学率は 0 %であった。前年度比では、1 年生で 1.6 ポイントの減、2 年生で 3.6 ポイントの増、3 年生で 0.6 ポイントの増となった。

とりわけ 2 年生で進路変更を理由とした退学率が増えており、退学防止対策及びチューター制等によるサポート事業を引き続き充実させていくと同時に、入学時に看護職を進路として選択する意識の確認を徹底することも効果的であろう。次年度の入試時には改善を加える必要がある。

(5) 奨学金など生徒への支援状況について

当校では令和 4 年度に「大学等における高等教育の修学支援新制度」の確認申請を行い、5 年度から対象校に認定されたところである。当該制度の受給対象者は予約採用、在学採用を合わせて 17 名となり、給付型の奨学金や授業料等の減免が適用されたところである。

また、医療法人社団洛和会が貸与する「洛和会奨学金」（返還免除の規定あり）や「洛和会京都厚生学校入学時緊急貸与特別奨学金」をはじめ学校法人洛和学園の「矢野奨学金」「特待生奨学金」（いずれも給付）を用意しており、令和 5 年 4 月時点で、洛和会奨学金は在校生 277 名中 208 名が受給し、およそ 75%を占めた。次年度以降、さらに利用されやすいように保証会社の活用についての検討が進められた。

さらには、京都府をはじめとした行政の修学支援、日本学生支援機構の貸与型奨学金、専門実践教育訓練給付制度での教育訓練給付金・教育訓練支援給付金、国の教育ローン、オリコ学費サポートプランなども利用されている。

(6) 教育資材・教育環境の整備について

授業及び演習において必要な設備・備品については、毎年充実を図ってきたところであり、令和 5 年度においては看護学科で既に導入しているハイブリッドシミュレーター SCENARIO（医療演習用人体モデル）とも連動して、看護の行動履歴を保存し動画で振り返る IT 管理システムを新規導入し、より実践に備えた教育を施した。助産学科では未熟児の生態に近いモデル人形や産褥期早期の子宮触診シミュレータ等の演習資材を整備し、看護学科同様に実践力の訓練に役立てた。

なお、教育環境の充実に向けては国家試験前の教室使用時間の延長や別棟の洛和図書館に配架した看護医療系雑誌を本校ロビーに移管し閲覧の自由度を高める等の措置を採

った。

新校舎の竣工は、令和6年度中の予定であり、図書館スペースの確保、インターネット環境の充実、高度医療に対応する演習用IT機器の整備等、ハード、ソフト両面で教育環境の飛躍的な向上が期待されるところである。

(7) 入学志願者増の取組について

本校への入学を希望する生徒数の増加を図る取組について、以下の点検を行う。

オープンキャンパスについては、全7回開催し、うち1回は初めて夜間開催とした。参加者の合計は230名となり、同伴者も含めると349名の来校を得た。

助産学科においては、全3回開催し111名が参加。同伴者を含めると215名となった。同伴者を除いた当事者ベースでは前年比看護学科で10ポイントの減、助産学科では7ポイントの増であった。

また、オープンキャンパス開催案内のチラシについては市内の図書館をはじめとした社会教育施設にも配置を行い、地元ラジオ番組に生徒等が出演し学校をPRする機会を得た。

以上のほか、進路ガイダンスは68回と前年より26回の増、来校の個別相談には11名に対応した。このほか高校訪問や出前授業、高校の進路指導担当教員を対象とした学校説明会等を開催した。指定校訪問においては進路指導担当教員向けリーフレットを新たに作成し、要点の周知に努めた。

以上の取組みを経て、令和6年度の入学志願者は、看護学科で定員80名に対して122名、助産学科では定員20名に対して91名となったが、いずれも前年を下回る結果となった。

ただし、看護系の大学及び専門学校においては、少子化等の影響で、いずれの学校も入学定員割れを起し、募集を停止した学校もあるが、当校では現状1度も定員割れを起していない。引き続き当校の魅力を最大限発信し、他校との差別化を図る必要がある。

(8) 特別活動について

新型コロナウイルスの影響で見送られていた卒業前の研修旅行が令和5年度に復活した。ただし急激な円安が進んだことから、従来のイタリアではなく生徒のアンケートを基に海外は韓国、国内は北海道を研修地とした。

また、生徒が主体となって運営した「水脈祭」も、前年は近隣への呼びかけを自粛して開催したが、新形コロナウイルスが第5類感染症となったことから、三密回避を心がけながら規模を拡大して催した。

また、キャンドルセレモニー（看護への誓い）も、父母のみならず指定校の進路指導担当者にも通知を行い、現役高校生の見学も募った。このほか、消防訓練、交通安全教室、20歳の誓い、ホームカミングデー、父母会等を催した。

(9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について

本校においては、地域医療の中核を担う総合病院として地域とのかかわりを重視して

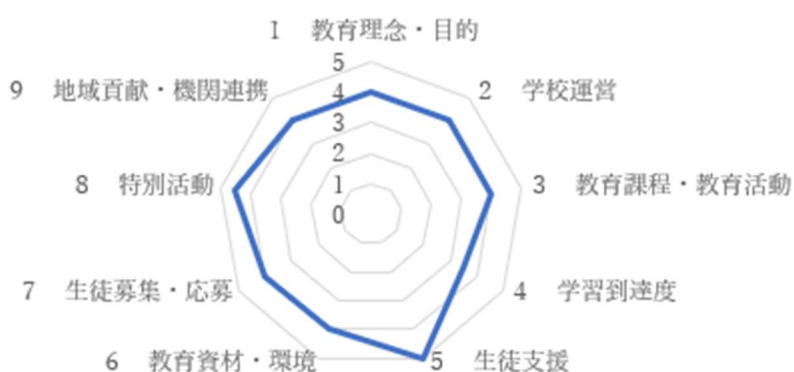
きた。高校への出前授業や保育所での手洗い指導などを従来から行っていたが、令和4年度から地元中学校へ赤ちゃん人形などの教育資材を貸出し、地域の保健センターとともに特別授業の支援を行った。5年度においても同様の取組みを行っている。

また、ボランティア活動として、JR山科駅において山科警察署とともに「痴漢撲滅啓発活動」を行ったほか校内でも授産施設で作られたパンの販売支援、NPO法人の取り組むフードドライブへの協力を行った。

今後とも地域の諸機関との連携により、相互に協調・協働して看護にかかわる専門学校ならではの取組みを引き続き発信していくことが必要である。

3 レーダーチャート

項目	評点
1 教育理念・目的	4
2 学校運営	4
3 教育課程・教育活動	4
4 学習到達度	3.5
5 生徒支援	5
6 教育資材・環境	4
7 生徒募集・応募	4
8 特別活動	4.5
9 地域貢献・機関連携	4



以上、「洛和会京都看護学校 学校評価実施要綱」に基づき、令和6年6月18日に校内評価委員会を開催し、令和5年度の自己評価結果を取りまとめた。

項目ごとに校内委員会において5段階の評定を行ったところ、上記の結果となり、平均値は4.1となった。

本評価結果についてはホームページ若しくは刊行物等により公表するとともに「学校関係者評価」を実施し、さらなる点検・改善を図るものである。

(参考)

校内評価委員会

洛和会京都厚生学校学校長、看護学科長)、助産学科長、看護学科副学科長、管理部長